

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-53476

⑪ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)5月23日

B 65 D 77/30
1/26Z 7127--3E
Z 6671-3E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 考案の名称 ポーション容器

⑮ 実 願 平1-113633

⑯ 出 願 平1(1989)9月28日

⑰ 考 案 者 早 川 茂 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内

⑱ 考 案 者 山 中 伸 夫 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内

⑲ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号

⑳ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

㉑ 実用新案登録請求の範囲

底壁5の周縁より立設した周壁6上端縁より外向きフランジ7を延設してなる上面開放の容器本体2と、上記外向きフランジ7上面の少なくとも前部の内周縁側を内周縁に沿って下方に凹ませて形成した凹部9に嵌合収納した杵材3と、上記容器本体2の開口部8を被覆するとともに、外向きフランジ7上面及び杵材3の上面に下面外周縁をシールしたシート状の蓋体4とからなり、上記杵

材3の左右に一对の薄肉ヒンジ10を形成してなることを特徴とするポーション容器。

図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第1図は本考案ポーション容器の一実施例を示す分解斜視図、第2図は開蓋状態を示す斜視図、第3図は縦断面図である。

2……容器本体、3……杵体、4……蓋体。

公開実用平成 3-53476

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-53476

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)5月23日

B 65 D 77/30
1/26

Z 7127-3E
Z 6671-3E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ポーション容器

⑯ 実 願 平1-113633

⑰ 出 願 平1(1989)9月28日

⑱ 考 案 者	早 川 茂	東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内
⑲ 考 案 者	山 中 伸 夫	東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内
⑳ 出 願 人	株式会社吉野工業所	東京都江東区大島3丁目2番6号
㉑ 代 理 人	弁理士 今岡 良夫	

明 細 書

1. 考案の名称

ポーション容器

2. 実用新案登録請求の範囲

底壁 5 の周縁より立設した周壁 6 上端縁より外向きフランジ 7 を延設してなる上面開放の容器本体 2 と、上記外向きフランジ 7 上面の少なくとも前部の内周縁側を内周縁に沿って下方に凹ませて形成した凹部 9 に嵌合収納した枠材 3 と、上記容器本体 2 の開口部 8 を被覆するとともに、外向きフランジ 7 上面及び枠材 3 の上面に下面外周縁をシールしたシート状の蓋体 4 とからなり、上記枠材 3 の左右に一对の薄肉ヒンジ 10 を形成してなることを特徴とするポーション容器。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は、ミルク等を収納する小型のポーション容器に関する。

「従来の技術及び考案が解決しようとする課題」

従来、ポーション容器として、周壁上端縁より

公開実用平成 3-53476

外向きフランジを延設した有底の容器本体のフランジ部分に、イーザービール性のシート状蓋体をシールしてなるものが一般に使用されている。

これ等容器は、蓋体端部をつかんで容器本体とのシール部分の一部或いは全部を削がし、内容液を注出して使用する如く構成しているが、一旦蓋体を削がしてしまふと、再び蓋体を容器本体にしっかりと被せることが困難となり、内容物の一部を保存しておきたい場合は不便であった。

本考案は、上記した従来技術の欠点に鑑みなされたもので、一旦開封した後も、蓋体を再び容器本体にしっかりと被せることが出来、内容液の漏出の虞の少ないボーション容器を提供することを目的とするものである。

「課題を解決するための手段」

底壁 5 の周縁より立設した周壁 6 上端縁より外向きフランジ 7 を延設してなる上面開放の容器本体 2 と、上記外向きフランジ 7 上面の少なくとも前部の内周縁側を内周縁に沿って下方に凹ませて形成した凹部 9 に嵌合収納した棒材 3 と、上記容

器本体 2 の開口部 8 を被覆するとともに、外向きフランジ 7 上面及び枠材 3 の上面に下面外周縁をシールしたシート状の蓋体 4 とからなり、上記枠材 3 の左右に一對の薄肉ヒンジ 10 を形成してなることを特徴とするポーション容器。

「作用」

第 3 図に示す状態から、つまみ部 11 をつかんで後方へ引くと、蓋体 4 と容器本体 2 のフランジ 7 部分とのシールが剝離し、次いで、枠材 3 が薄肉ヒンジ 10 の部分から立上がり、第 2 図に示す如く開蓋する。

内容物の一部を使用し、残りを保存しておきたい場合は、蓋体 4 を再び閉じれば、枠材 3 外周縁と凹部 9 とがしっかりと嵌合し、液漏れが生じる虞が少ない。

「実施例」

以下、本考案の実施例を図面を参照して説明する。

第 1 図～第 3 図は本考案の一実施例を示し、図中 1 はポーション容器を示す。該容器 1 は、容器

公開実用平成 3—53476

本体 2 と、杵材 3 と、蓋体 4 とから構成している。

容器本体 2 は、合成樹脂等により形成され、その底壁 5 の周縁より立設した周壁 6 上端縁より外向きフランジ 7 を延設した上面に開口部 8 を有する筒状をなしている。又、容器本体 2 の外向きフランジ 7 には、上記杵材 3 が収納可能な凹部 9 を形成している。該凹部 9 は外向きフランジ 7 上面の内周縁側を内周縁に沿って下方に凹ませた環状をなしており、杵材 3 を収納した際に、その上面が容器本体 2 の外向きフランジ 7 上面と略同一高さとなる如き深さを有している。

杵材 3 は、合成樹脂等により形成した前方のすぼんだリング状でその前部下面に左右一対の薄肉ヒンジ 10 を設けており、上記容器本体 2 の凹部 9 にその外周を嵌合して収納している。

又、蓋体 4 は、アルミ等の金属或いは金属と合成樹脂の積層体で形成され、その外形が容器本体 2 の平面形状と略同一で、先端に引き剥がし用のつまみ部 11 を突設したシート状であり、上記容器本体 2 の外向きフランジ 7 上面及びリング状の杵

材 3 の上面に、その下面外周縁をシールして容器本体 2 の開口部 8 を被覆している。

尚、上記実施例において、凹部は環状をなしているがこれに限られず、少なくともフランジの前部上面の内周縁側を、内周縁に沿って下方に凹ませた形状であれば良く、その際、それに伴って、棒材の形状も変化する。

「考案の効果」

以上説明した如く、本考案容器は既述構成としたことにより、一旦開封した後、内容物の一部を使用して残りを保存したい場合に、再度蓋体を閉じれば、棒材と凹部とがしっかりと嵌合するため、液漏れを生じる虞は極めて少ない。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示し、第 1 図は本考案ポーション容器の一実施例を示す分解斜視図、第 2 図は開蓋状態を示す斜視図、第 3 図は縦断面図である。

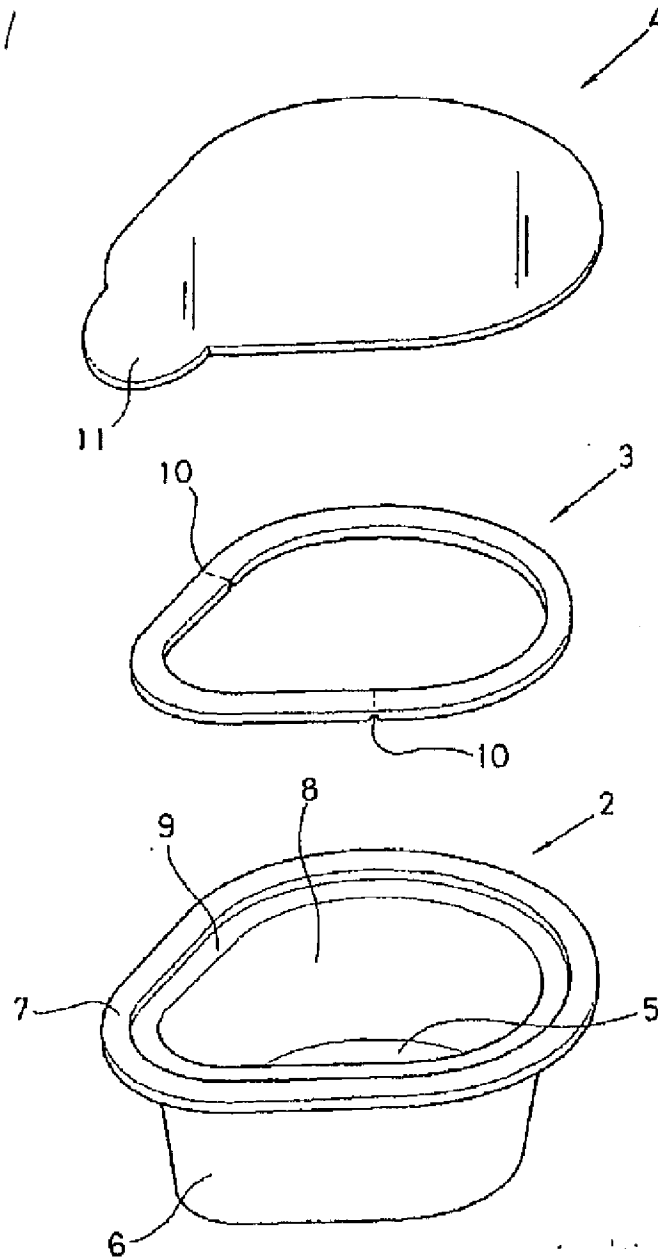
2 … 容器本体

3 … 棒材

4 … 蓋体

第 1 図

Fig. 1



1012

実用 3-53476

出願人 株式会社

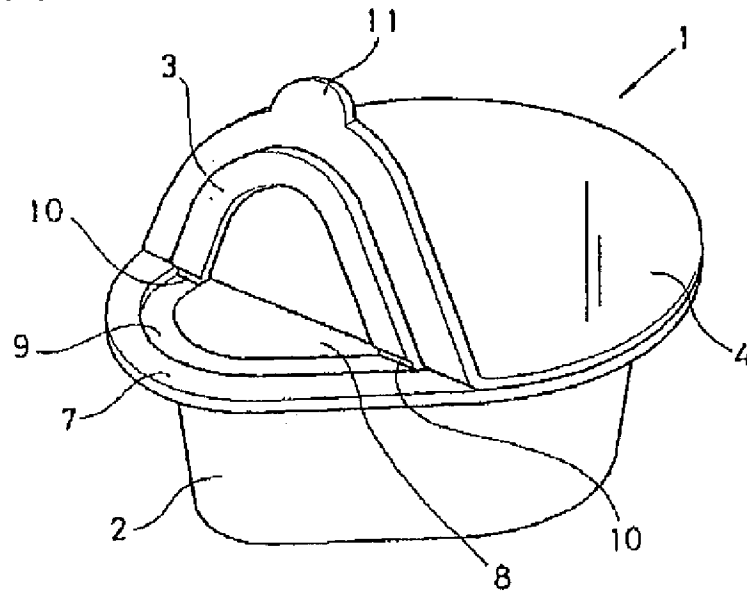
代理人 弁理士

吉野工業所
今岡良



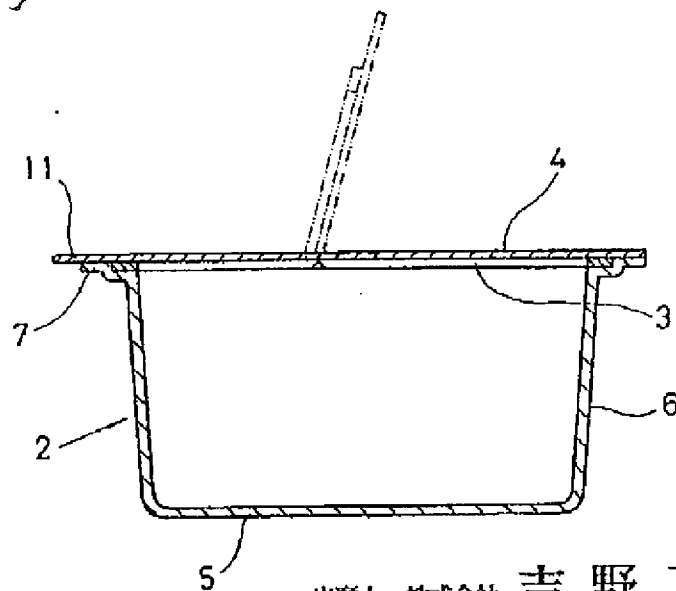
第 2 図

Fig. 2



第 3 図

Fig. 3



出願人 株式会社 吉野工業所

代理人 弁理士 今岡良夫

1013

1013

